

令和3年度 島根県学力調査結果及び分析（松江市立義務教育学校玉湯学園前期課程）

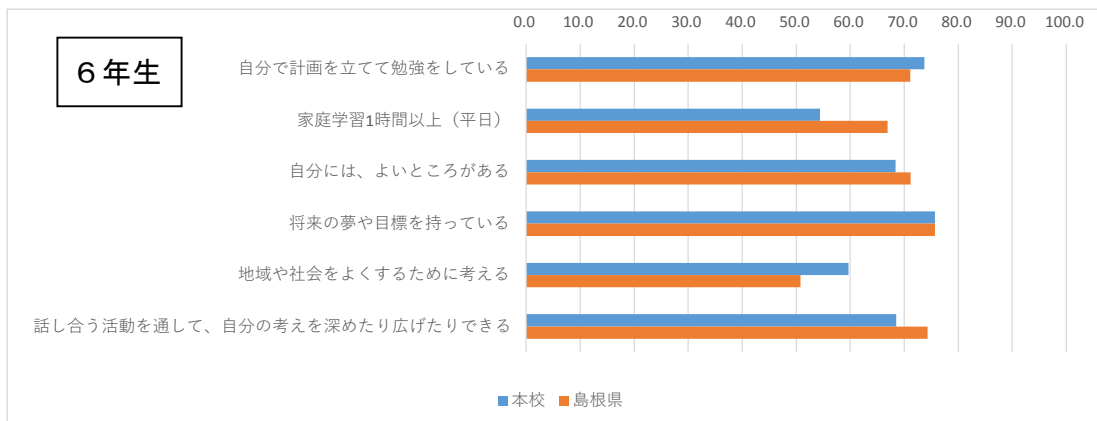
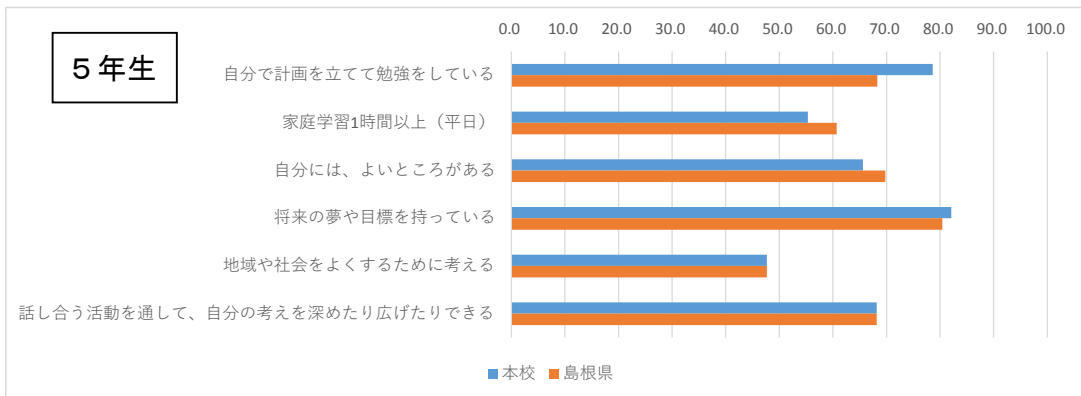
(1)学力調査結果から見られた成果と課題(○:成果 ●:課題)

5 年 国 語	○「話し合いの内容を聞き取る」の項目の正答率が高かった。これは、国語の時間だけでなく、学級活動や各教科でも自分の考えをもたせたり、話し合いの流れやポイントを示したりしながら話し合う活動を取り入れた成果ではないかと考える。 ○漢字の読み書きが全体的によかった。これは、他教科でも文章を書く際、学習した漢字を使うよう指導したことで定着が進んだと考えられる。 ●「書く活動」が全項目で低かった。書く活動を取り入れる際には、目的やポイントなどを意識できるように指導を行う。 ●無回答が後半の問題に多くみられた。時間内に多くの問題を解く経験が少ないことも考えられる。	○情報と情報の関係について理解して、簡単な文章を書くことができていた。 ●下学年で学習した漢字や文章に適した漢字を書くことが十分に定着していない。各教科の学習の中でも漢字を意識して使っていくように指導を行う。 ●問題を解く速さに課題が見られ、後半の問題に取り組めていない児童が多い。ペース配分などの経験不足や、書くこと自体に時間がかかっていることも考えられる。7年生での学習ペースに付いて行けるように、問題の全量を意識させたり、ある程度のスピードを要求したりするような指導を行う。
5 年 算 数	○基本的な計算、数の仕組みの正答率が高かった。これは、学習時間内に個々で問題を解く時間を確保したり、計算会などでできなかった問題を解けるようになるまで繰り返したりした成果であると考えられる。 ○「図形」の学習に定着がみられた。これは、具体物や半具体物、視覚機器を使ってわかりやすい授業構成を取り入れたからであると考えられる。 ●記述式の問題について無回答・誤回答が多くみられた。話し合いのときに分かったことや考えを書いたり、振り返りの際に、自分の言葉でまとめたり、するような活動を意識的に取り入れていくことも必要だと考える。	○分数倍、文字の式、線対称、図形の拡大についての基本的な立式や作図の正答率が高かった。 ●問題を解く速さに課題が見られ、後半の問題に取り組めていない。時間を設定した中で、ある程度の量の問題をこなすなど、経験を積ませる。 ●面積の求め方や、比を使った問題の解き方を文章で説明する問題に課題が見られる。求積方法を説明し合う学習や、比の関係を視覚的に捉えられるよう、図に表してその関係を説明するなど、立式と言語的活動を合わせて行うような学習を行う。

(2)生活意識調査から見られた成果と課題(○:成果 ●:課題)

5 年	○1～6年生まで行っている「ぐんぐんタイム」(生活・学習)の意識を高める活動を年間6回行っており、規則正しい生活が定着していると思われる。家庭学習1時間以上の割合は低いですが、1時間30分以上の割合は多く、全体的には学習習慣が身についていると考えられる。 ●「自分にはよいところがある」の項目が低い。これは、「自分が認められている」の項目が低いこととの関連が考えられる。今後、自己肯定感を高める取組などが必要ではないかと考える。	○自分で計画を立てて学習することや地域や社会をよくするために考える姿勢が見られる。 ●家庭学習の時間が十分ではない。家庭学習でどのようなことをすればよいのか、自主学習の内容を設定するなどの指導を行っていく。 ●話し合い活動を通して自分を考えを広げようとする姿勢が不十分である。必要感のある話し合いの場の設定など、話し合い活動の良さを感じられる場面を作っていく。
--------	--	---

(3)意識調査(教育委員会として注目している項目のうち、全国学力・学習状況調査と同様の質問項目を挙げています)



【受検者数】 5年生 68名 6年生 59名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。